

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こどもサポート教室「きらり」 草津駅前校		
○保護者評価実施期間	2024年 11月 1日 ～ 2025年 1月 31日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	30	(回答者数) 22
○従業者評価実施期間	2024年 11月 1日 ～ 2025年 1月 31日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 2月 15日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子ども達1人1人に寄り添った支援の提供。 （保護者様からのニーズはもちろん、その子の特性や発達段階を把握し、その子に合った支援プログラムを実施。）	支援準備時や支援後に、担当指導員間で情報共有を行っている。 モニタリング書類を参考にするだけではなく、支援中の子どもの様子を把握し、柔軟に対応している。	担当指導員間だけではなく、定期的な校舎内MTで全員で情報共有を行い、多角的な視点から支援内容を検討する。
2	小集団支援の計画し、実施しながら子ども達同士の関係性、コミュニケーション能力も伸ばしていけるようにしている。	校舎内MT等で子ども達の最近の様子等の情報共有をし、その様子に合った小集団支援を計画している。 テーマも決めるようにしている。	実際の生活場面を想定した設定及び、取り組みを校舎全体で更に検討していく。
3	子ども達が安心して楽しみながら通い、支援に取り組んでくれる環境がある。	常に笑顔で心掛けている。 子ども達関わる中で、否定ではなく肯定の意識を持ちながら支援を行っている。	気持ちの面だけではなく、教室の設備の安全面や支援終了後の対応を更に検討し、支援の入れ替わり等をスムーズに行っていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	HPやSNS等で、教室で取り組んでいることの発信を、定期的には出来ていない。	支援後のFB及び面談は行っているが、それで満足してしまっている。	校舎内MTの際に今週の振り返りを行い、情報共有をした上で発信する内容を検討していく。
2	保護者様同士で交流する機会の提供や、ペアレント・トレーニング及び、発達に関する研修の機会の案内も少ない。	放課後等デイサービスに比べると小集団支援は行えていて、こちら側からの交流はあるが、保護者様同士での交流は少なく、ペアレント・トレーニング及び、発達研修に関しての専門的な知識が足りていない。	小集団支援を増やす検討及び、保護者様のみのイベントの検討を実施していく。 ペアレント・トレーニングや、発達研修の機会の把握。
3	利用者様へ事故防止、緊急時対応、防犯、感染症対策等の会議及び訓練実施等の周知及び、説明が十分ではない。	契約時、面談時、FB時のみの説明で周知出来ているつもりになっていた。	各マニュアルを廊下等の眼に見えるところ掲示し、周知をしていく。 訓練については子ども達も一緒に取り組む検討もしていく。 (より実際の場面をイメージした訓練)

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 子どもサポート教室「きらり」 草津駅前校

公表日 2025 年 2 月 15 日

利用児童数

30

回収数

22

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・体制整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	19	2		1	運動系の活動をしていると、もう少し広さがある方がいい。 十分なスペースで活動出来ている。	広さは限られている為、支援前のミーティング及び、子ども達の特性や、支援内容に合った広さに柔軟に変更する。
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	22					職員が欠席の時の配置数の改善が必要。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	16	3	2	1	スロープで対応しているが、安全性を考えるとバリアフリーを強化する必要がある。 玄関が狭くどうしても次の人と被ってしまう。	支援の一環として、指導員が子ども達の誘導を行い、注意を促していく。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、子ども達の活動に合わせた空間になっていますか。	22				きれいに整理整頓されていると思う。	これまでの取り組みを継続。
適切な支援の提供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	22				よく観察して、状況に応じて対応して下さっている。	これまでの取り組みを継続。
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っているとおもいますか。	20			2		これまでの取り組みを継続。
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	22				子どもの様子を見ながら支援計画の作成及び、支援を実施して下さっているように思う。	これまでの取り組みを継続。
	8	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	21			1	子どもの様子を見ながら支援計画の作成及び、支援を実施して下さっているように思う。	これまでの取り組みを継続。
	9	児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	22					これまでの取り組みを継続。
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないように工夫されていると思いますか。	21	1				これまでの取り組みを継続。
	11	保育所や認定こども園、幼稚園等の交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	11	4	5	2	交流は特になくても問題ないと思います。	まず保護者様からのニーズを把握し、実施していくのかの検討、企画内容の検討等を行う。
保護者への説明等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	22					これまでの取り組みを継続。
	13	「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	21			1		これまでの取り組みを継続。
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	7	6	2	7		まずそういったプログラムや、研修が行われているかの把握、内容の把握が必要で、情報収集をする必要がある。
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況について共通理解ができていると思いますか。	21			1	不定期利用でも、最近の子どもの様子や状況についてのお話を聞いてもらっている。	これまでの取り組みを継続。
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	19	1		2	不定期利用でも、最近の子どもの様子や状況についてのお話を聞いてもらっている。	これまでの取り組みを継続。
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	22					これまでの取り組みを継続。
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	4	5	5	8		ニーズがあるかどうかの確認を実施。

	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	19	2		1		これまでの取り組みを継続。
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	22					これまでの取り組みを継続。
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	10	2		9		LINE等を活用しての情報の発信に取り組む。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	19			3		これまでの取り組みを継続。
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	14	2	1	5		各マニュアル等を廊下へ掲示し、周知していただく。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	5	4		13	実際に訓練はされていないのではないか。	子ども達と一緒に訓練する機会を設けてもよいのではないか。
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	19	1		1		各マニュアル等を廊下へ掲示し、周知していただく。
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	17	2		3		これまでの取り組みを継続。
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	21				全ての先生が丁寧に優しく接してくれ、子どもが安全で安心感を持って通えている。 いろいろな視点で見てくれて心強い。 ポジティブフィードバックもして下さり有難いです。	これまでの取り組みを継続。
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	21	1			毎回楽しく通っています。	これまでの取り組みを継続。
	29	事業所の支援に満足していますか。	21			1	これでいいのか思うところもある。 放デイに上がった際には、小学校まで迎えに来てもらえたらいいなと思います。	定期的な校舎MT等で振り回りの実施。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日				
子どもサポート教室「きらり」 草津駅前校		2025 年 2 月 15 日				
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6		支援前の準備及びミーティングにて、支援に使用する教室及び部屋の広さを、柔軟に変えている。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	4	2	急遽の職員の欠席に対して対応できるように、十分ではないが支援内容の共有が出来るように、早め早めの連絡を心掛けている。	職員が欠席の時の配置数の改善が必要。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	6		スロープ配置の際は、他児が遊具にしまわないように伝えている。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	6		支援後の消毒や清掃等に、短い時間でも取り組んでいる。	支援後だけではなく、週に1回程度だけでも定期的な清掃が必要。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6		職員間で話し合っ、使用する部屋やスペースの広さを調整している。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	5	1		一部の人のみの話で終えてしまっていることもあり。定期的な校舎内MTが必要。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	3	3		把握する機会があまり持てていない。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6			個々に話をしていることが多いため、月に2回ほど定期的に校舎MTを設けて、情報共有をした方が良い。全体で把握出来ていないのではないかな。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	5	1		評価内容や結果を全員が十分に把握できていないところがあるのではないかな。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	6			
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	6			
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	6			
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6		支援後、支援前の準備時に担当指導員間で情報共有を行っている。 モニタリング書類だけではなく、実際に話をするようにしている。	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6		支援後、支援前の準備時に担当指導員間で情報共有を行っている。 モニタリング書類だけではなく、実際に話をするようにしている。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	5	1	アセスメントの意味を含めた支援内容も行っている。	フォーマルなアセスメント表を使用してアセスメントを取れていない部分もある。
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6			
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6			中心となって立案する指導員が固定化している為、輪番制にして機会均等なしてみてもどうか。

供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6			個々に伝え合いをしているだけの部分もある為、校舎内MTを行えるようにした方がいい。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	6			個々に伝え合いをしているだけの部分もある為、校舎内MTを行えるようにした方がいい。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	1	5		打ち合わせが出来ていない時もある。個人で把握している部分もある為、管理者を含む打ち合わせが必要。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	2	4		必ず難しい時がある。支援間の時間では打ち合わせが出来ないことがある。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6			
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6			
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6			
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6			
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	6			
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	4	2		
	28	(28～30は、センターのみ回答)				
		地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答)	4	2		
		地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。				
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	1	5		地域の中で交流機会がない。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	6		支援後にその日の支援の子どもの様子を伝えることで、状況の確認をしている。	
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	3	3		ペアレントトレーニングがもっと必要だと思われる。
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6		利用契約時に説明を行っている。	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6		FBや面談等、機会を設けている。	

保護者への説明等	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	6		面談等で行っている。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6		FBや面談等、機会を設けている。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	2	4		今年度は保護者同士の交流する機会が1回しか持てなかった為、積極的に機会を設けていきたい。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6		こちらからも相談の機械等を提案している	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	6			
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6			
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6			
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	4	2		
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6			職員のみでの訓練しか行えていない。子どもと一緒に訓練も必要ではないか。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6		防災訓練を行っている。 その都度職員が災害への意識を持てている。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	6			
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	2	4	保護者へは確認をとっている。	医師の指示書に基づいているかは不明。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6		研修内、訓練内でも様々な質問を出すようにしている。	
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	3	3		家族への周知が出来ていないと思う。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	6		欠かさず行っている。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6		欠かさず行っている。	
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	6		欠かさず行っている。	